

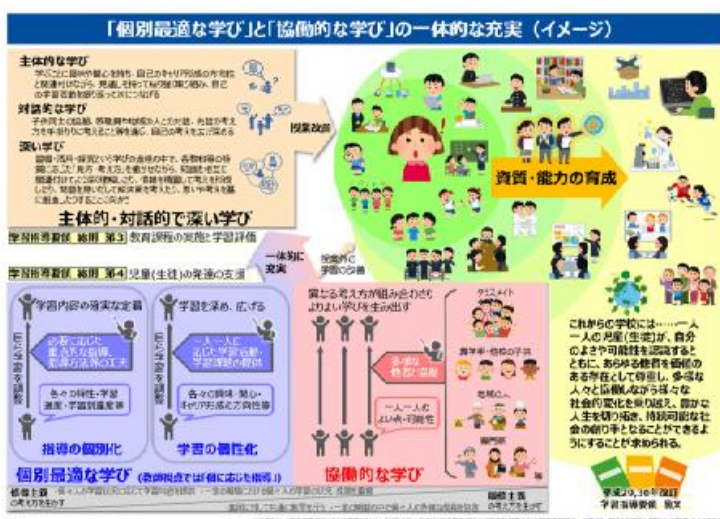
校内研究方針

1 研究主題及び教科

研究主題	主体的に対象と関わり、共に高め合う子どもの育成 ～アウトプットでつながる授業づくり～
教科・領域	算数科

2 主題設定の理由

(1) 新学習指導要領の方向性



①**個別最適な学び**：児童生徒一人ひとりの特性や学習進度・関心に応じた学習を提供し、主体的な学びを促進。

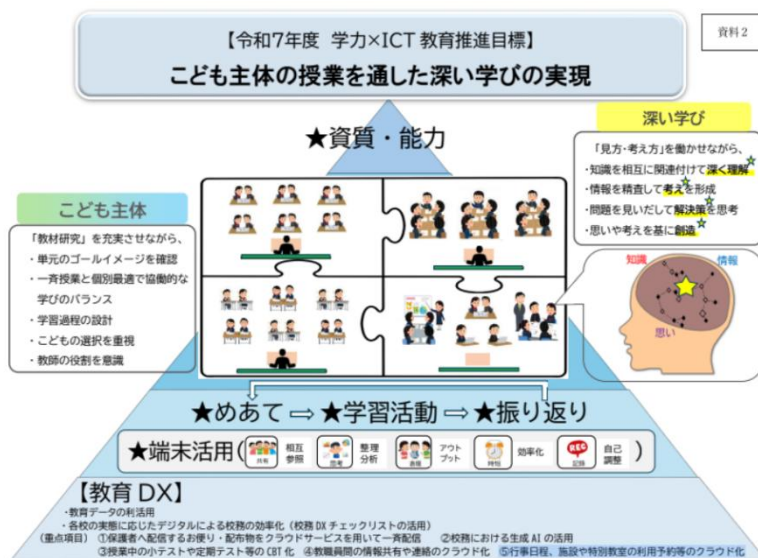
②**協働的な学び**：多様な他者と協働し、異なる考えを共有・統合することでより深い理解や新たな価値を創造する。

①+②=児童が**主体的・対話的で深い学び**を**実現**→資質・能力を育成。

file:///isze.edu.city.suzuka.mie.jp/Profile/03_profile/03_t013/Downloads/[] [].pdf

(2) 鈴鹿市の教育の方向性

- ・こども主体の授業を通した深い学びの実現
- ・複線化→一斉授業と個別最適で協働的な学びのバランス
- ・学力×ICT



(3)加佐登小学校の方向性

昨年度の児童の様子を見ると、学習に対し受け身の児童が多い印象がある。また、昨年度の成果と課題より、低学年では複線型は難しく、学年に応じて実物を操作したり、ペア・グループ学習を行ったりするなど、多様な方法で学習取り組み、考えを発信できるようにしていくことが必要と考える。そこで、本年度も主題は「主体的に対象と関わり、共に高め合う子どもの育成」とする。

昨年度の副題は「複線型算数の授業を通して」であった。今年度は、学年に応じて個別最適で協働的な学びのために適宜複線型を授業に取り入れることにし、子どもが主体的に授業に参加できるように、アウトプットやふりかえりを大切にしていきたい。そこで副題を「アウトプットでつながる授業づくり」としたい。

(4)重点項目

重点① 子どもが主体的に対象と関わる手立て

<手だての具体例>

- ・興味、問いを持てる単元の導入や授業の導入。
- ・授業の流れや学習のステップを教師児童共に見通せる仕組み。
- ・学びの対象の明確化（何を学ぶのか）
- ・個別最適で協働的な学び
- ・振り返りの確保 自己との対話

重点② 子ども同士が共に高め合う手立て

<手だての具体例>

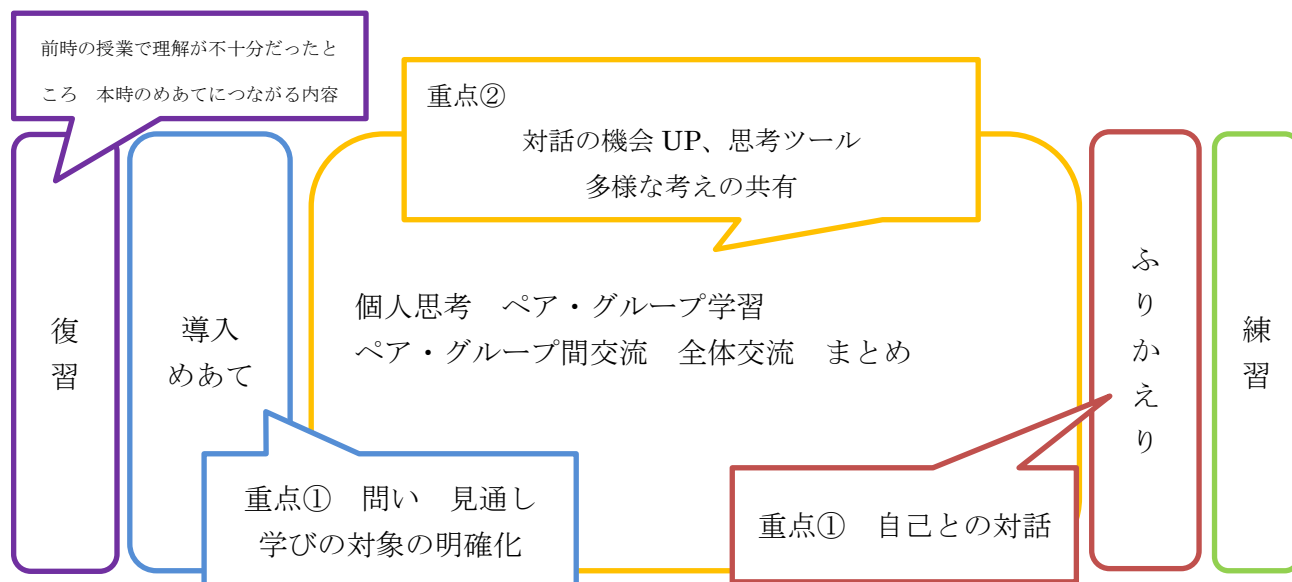
- ・ペア活動・グループ活動による対話の機会を持つ。
- ・思考ツールを活用し、児童自身で考えを整理分類し意見を再構築する。
- ・多様な考えを共有する場を設ける。

(5)検証方法

- ・4月と2学期末に実施する年2回の算数アンケート、児童アンケート
- ・研究授業後の事後研修会での話し合い。

(6)授業デザイン

- ・複数ある重点①②の手立ての中から、自身がやりたいものを選んで授業実践する。



3 研究構想図

学校教育目標「思いやりをもち、自ら考え、意欲的に取り組む子の育成」

めざす学校像 安心して過ごせる学校「毎日が楽しく、明日が待たれる学校」
確かな学力・豊かな人間性・健やかな身体を育む学校

研究主題 主体的に対象と関わり、共に高め合う子どもの育成
～アウトプットでつながる授業づくり～

めざす子ども像

	低学年	中学年	高学年
自ら学び (主体的)	・ 基本的な言葉や数・式 や、知識をもとに自分な りの考えがもてる子	・ 言葉や数・式・図・表・グラフ などを活用して自分の考えをも てる子	・ 言葉や数・式・図・表・グラフや既習 事項を活用して自分の考えをもてる 子
他者から学び (対話的)	・ 自分の考えを発表し、人 の話を聴くことができる 子	・ 自分の考えを発表し、人の考え と比べながら聴くことができる 子	・ 算数的用語を用いて自分の考えを説 明したり、人の考え方と比べたりし ながら聴くことができる子
他者と学ぶ (深い学び)	・ 聴き合うことを通して、相 手と自分の考えをつなげ る子	・ 聴き合うことを通して、多様な 考えをつなげ、解決方法や表現 方法を見いだす子	・ 聴き合うことを通して、多様な考えを つなげ、より質の高い解決方法や表現 方法を見いだす子

主体的・対話的な深い学び

具体的な取組

(1)授業づくり

重点①

子どもが主体的に対象と関わる手立て

重点②

子ども同士が共に高め合う手立て

(2)学習環境づくり

- ・ 学習規律の共通理解・徹底
- ・ 各学年の教育活動の様子の掲示
- ・ 自主学習の啓発

(3)「自分の思いを出し、認め合える」学級集団 づくり(人権部との連携)

- ・ 「分からない」と言える雰囲気づくり
- ・ 相手の意見を尊重できる姿勢の育成
- ・ 友だちが受け止めやすい言葉を選ぶ力の育成
- ・ あきらめずに取り組む力の育成

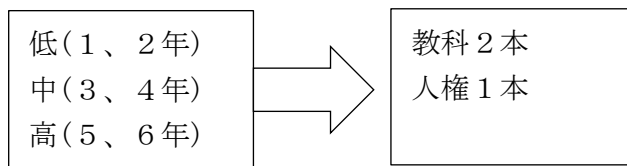
(4)みんなが同じ方向を向かい、チーム力のある校内研修

- ・ 年間を通しての、研修テーマの意識づけ
- ・ 全員で改善点を探る事後検討会をはじめとする校内研修の実施
- ・ 教師自身も楽しく学べる校内研修の充実
→自主研修会、授業公開
- ・ 家庭学習の充実

4 日常的な取り組み

(1) 研究授業について

①研究授業の割り当て



- ② 1 学期に 1 本、2 学期に 1 本、算数科の研究授業を入れる。2 学期末までには研究授業を実施。
3 学期には来年度に向けてまとめていけるようにする。
- ③ 特別支援学級は、児童の様子をつかんでもらうことを目的として、1 学期（5 月または 6 月）に公開授業をする。指導案は略案とする。（単元名・目標・本時の活動・各児童の本時の目標・本時の学習）自分のクラスに在籍しているたんぽぽ籍の児童を見に行く。
- ④ 学年部会で指導案・本時について検討すること。指導案配布は、授業日の前の週の金曜日 17 時までとし、それぞれが読み込んで研修会に参加する。事後検討会はもつ。（事後検討会には教育指導課より講師を招く。）
- ⑤ 事後検討会は司会を研修長が行い、重点項目に沿って意見交流をする。授業者に成果や課題を伝える。また、自分だったら…という視点での意見、自分自身の課題と学びを常に振り返ることのできる研修会にしていく。
- ⑥ 全体提案する教員以外も、全員が一度は授業公開を行う。
 - ・実施日を事前に知らせる。
 - ・全体研の事前研の場合は、全体研の指導案を出す。
 - ・単級の場合は指導案はなくてよい。
 - ・授業公開は人権か算数どちらでもよい。
 - ・全体研以外の授業公開は、学年部や管理職に加え希望者が見に行く。
- ⑦ 通級は公開期間が指定されているため、その期間に行う。
- ⑧ 見回りはしない。ビデオ撮影は必要な人が各自で行う。

(2) 校内研修

- ① 4 年生以上は、年に 2 回、算数アンケートを実施。分析して児童の実態をつかむ。
- ② 各担任で 4 月早い段階でレディネステストに取り組みクラスの児童の学習定着度を把握し、各学年の様子を交流する。
- ③ 夏期研修では、鈴鹿市が主催する算数科の研修会に全員が参加していく。全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックの問題に教師が取り組んだり結果分析したりする。夏期研修還流会等を夏季休暇中に行っていく。
- ④ 必要な場合、もしくは希望があれば自主研修会を行う。
各自が得意分野の紹介をしたり、専門分野の日ごろの取り組みを紹介したりする。

(3) 朝のモジュールタイム（毎週月・木・金曜日）

- ・月・木・金曜日の朝のモジュールタイム 15 分（8：25～8：40）を、国語 1 コマと

してカウントする。(3～6年)

- ・1、2年は朝の読書や発達段階に適した学習を行う。
- ・市教委作成の読む書くワークシートに取り組む。5月ぐらいから取り組めるとよい。
- ・8：25には、どのクラスも確実に静かに朝のモジュールタイムが始められるようにする。

＜朝の読書＞

- ・マンガ（学習マンガはよい）やミッケは除く。

(4) 補充学習（毎週火曜日）※ボランティアなし

- ・算数の補充学習を行う。
- ・四則計算の計算プリントや応用問題や文章題のプリントに取り組む。
(3～6年)
- ・個別学習の充実にも活用していく。(九九、繰り下がりなど)

(5) 朝の読み聞かせ（毎週水曜日）※ボランティアあり（3年生以下希望制）

- ・学年で相談して、来ていただく日や回数を決める。

(6) 家庭学習について

- ① 家庭学習3点セット（音読・計算・漢字）をどのクラスでも行う。高学年は（自主学習・計算・漢字）の3点セットにしてもよい。学年で量をそろえる。できるだけその日に学習した内容を出すようにする。
- ② 4年生から、少しずつ自主学習も行っていく。学年で出し方を統一して行っていく。3年生は、児童の実態に応じて、取り組みを開始する。
- ③ 実態に応じて、日記、プリント等に代えることもある。
- ④ 音読の宿題には、国語の教科書だけでなく社会や道德などの教科書の音読を計画的に入れていく。読書の宿題もあってもよい。
- ⑤ 宿題は、なるべくその日のうちに目を通し、児童に返却する。
- ⑥ 自主学習は、児童の意欲を高めるための工夫（コメント紹介など）をする。
- ⑦ 学習時間は「10分×学年＋10分」となるようにし、学年に応じて、自主学習を増やしていく。
- ⑧ chromebook を持ち帰り、3点セット4点セットの代わりに家庭学習として課題を出してもよい。(端末管理台帳は年度末にチェックする。)ただし、学年では大体揃える。

(7) 年間学習指導計画の確認

- ・昨年度末に作った年間学習指導計画を4月中に見直し、年間の計画を立てる。
研究授業をいつ頃、どの単元で行うかも、合わせて見通しを立てておく。
- ・新担任は4月中に新しく学習指導計画の加筆修正をすること。

(8) 学習のきまり

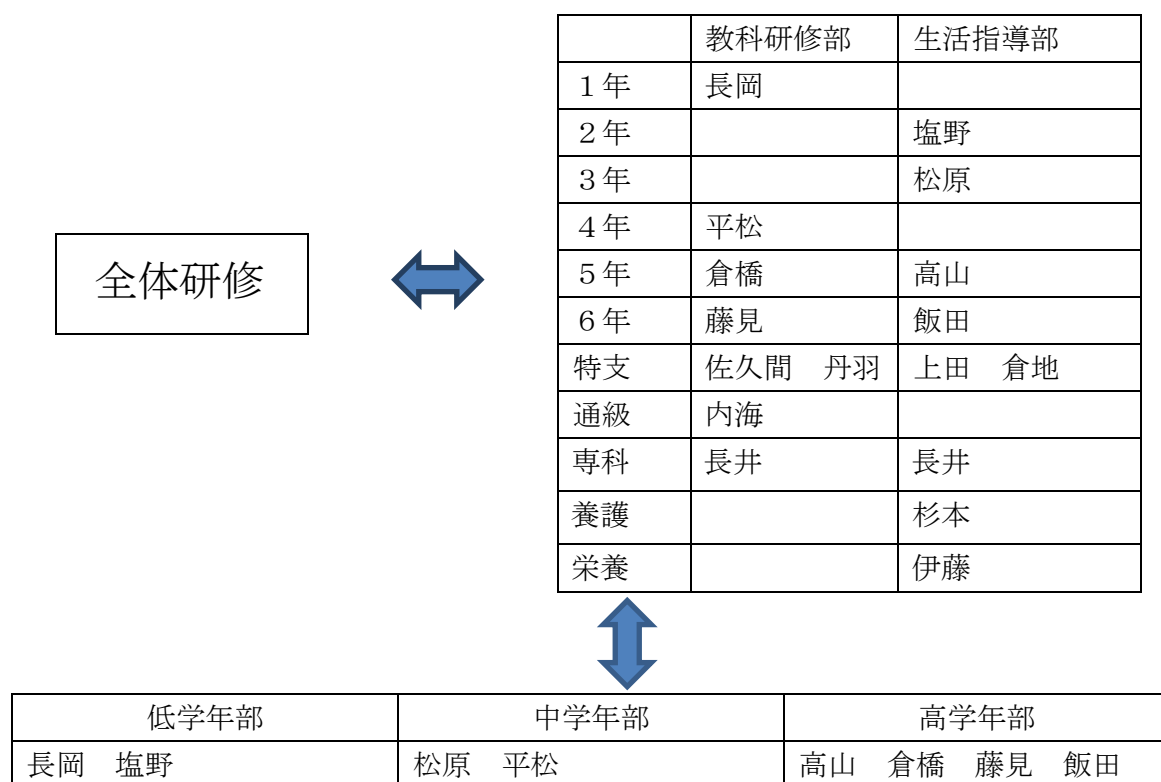
- ・4月に加佐登小学校の学習のきまり（特に持ち物）を配布し、全校での統一をはかる。

→児童全員に配布し、4月当初に学級指導をする。学期はじめには持ち物チェックと共にきまりの確認をする。

→持ち物チェックをし、意識づけていく。(持ち物・学習規律チェック表の活用を！)

- ・一昨年度から4年生以上は赤ペン使用が認められた。しかし、持ち物・使用方法に乱れがあったため、本年度は、4、5年生も赤、青えんぴつのみの使用とする。今年度は6年生は使用してもよいこととするが、来年度は全学年でなくしていく方向にする。

5 研究組織



6 その他

(1) 校内研修 (長岡)

- ①研究授業の運営全般・日程調整・講師の先生との打ち合わせ
- ②研修に関する校内研修会の計画
- ③指導案の提案
- ④教育委員会提出文書、派遣文書等の作成
- ⑤研修担当者会議への参加
- ⑥教研推進委員会への参加
- ⑦学力向上担当者会議への参加
- ⑧「読む書くワークシート」の準備と配布 (長井)

(2) 自主研修会 (長岡) …不定期開催(希望や必要があれば実施)

- ①自主研修会、授業公開の企画・運営 (ICTの活用、各教科、自主学習の取り組み方など)

②各自が得意なことや普段授業の中で取り組んでいることなどを紹介しあう形で行っていく。

(3) 学調・みえスタ、アンケート (主 平松) (副 長井)

- ①算数アンケートの作成・提案，結果分析
- ②全国学力学習状況調査，みえスタディチェックの連絡調整
- ③成果と課題から対策を考え，推進していく。(全員)
- ④全国学力・学習状況調査，みえスタディチェックの分析
(※8月と2月に報告文書作成)

(4) 家庭学習・学習の決まり(丹羽)

- ①家庭学習の約束の見直し・配布，年度途中の取り組み
- ②学習の決まりの見直し・配布，年度途中の取り組み

(5) 学習支援ボランティア (佐久間) ※読み聞かせも含む

- ①ボランティア要請の声掛けと取りまとめ
- ②地域コーディネーター村上さんとの連絡調整 (人材が決定後、学年に任せる)
- ③ボランティア集会の計画・進行(※本年度は4月17日に実施)
- ④ボランティア、外部講師の活用表をまとめる声かけ

(昨年データ先>03 研修部>ボランティア>令和6年度出前授業と地域連携授業)

上記のエクセルのデータに各学年は随時外部講師との連携内容をまとめていくこと。

(6) 教育環境(丹羽)

- ・持ち物・学習チェック表の活用
- ・年度初めと終わりの教具の管理
(年度初めと年度末にチェックリストを配布すること。)

(7) 図書館教育 (倉橋)

- ①読み聞かせボランティアと連絡し，水曜日の読み聞かせを進める。(3年生以下 希望制)
- ②読書活動の推進
- ③図書館運営

(8) ICT 部会 (主 藤見) (副 内海) (佐久間)

- ①着任した先生の Chrome ブックのセットアップ(内海)
- ②ICT 担当者会議や校区の連絡会など，校外の会議への参加(藤見)
- ③充電コードや PC などの修理及び破損等の備品管理や台帳管理(内海)
- ④名簿管理 C4th(内海)
- ⑤キャリアパスポート関係(藤見)
- ⑥ICT 支援員 岡部さんとの連携(藤見)
- ⑦デジタル教科書(内海)
- ⑧L - Gate やメクビットの設定(藤見・内海)

⑨新しい児童用端末の準備（佐久間）

（９）鈴教研（平松）

- ①班研修 原則第２水曜日（４，７，９，２，３月は行わない。）名簿作成
- ②鈴教研についての連絡 教育研究集会の参加者の取りまとめ
- ③鈴教研発表に向けての準備，連絡調整

（１０）学習年間指導計画（長岡）

- ・学習年間指導計画の提案，取りまとめ

（１１）評価（藤見）

- ・あゆみ・指導要録の評価基準，記入事項記入方法の提案
- ・保護者への連絡文

7 年間研修計画

一 学 期	4月	職員会議（今年度の研修 主題・目的について） 校内研修会（今年度の研修・指導年間計画・研究授業・指導案の書き方・研究授業の報告書の書き方について）
	5月	職員会議（算数アンケート結果および分析
	6月	特別支援学級公開授業 学年研修（教材研究・指導計画・指導案検討）
	7月	職員会議（あゆみのつけ方）
	8月	校内研修会 （教材研究・指導計画・指導案検討、全国学力学習状況調査結果分析など） ※随時、学年研修や自主研修会を行う。
	※6月～7月 全体研究授業（算数科） 事後検討会	
二 学 期	※9月～12月 全体研究授業（算数科）事後検討会 人権の研究授業（事後検討会） ※随時、学年研修を行う。	
三 学 期	1月	学年研修・研修部会（今年度の反省とまとめ）
	2月	校内研修会（今年度研修の成果と課題）
	3月	校内研修会（来年度の研修に向けて）